



K.C.News

京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202

発行人 矢野隆弘



- ◆ 普遍化に向かう福祉の中で ————— 1
- ◆ 近畿地区知的障害関係施設長会議に参加して — 2
- ◆ 知的障害者福祉施設職員研修会に参加して — 3
- ◆ 幼児のつどいを終えて ————— 4
- ◆ 京都知福協風船バレーボール大会をふりかえって — 5
- ◆ シリーズこんにちは ————— 6
- ◆ シリーズがんばっています ————— 7
- ◆ シリーズこんなことやっています ————— 8
- ◆ 編集後記 ————— 8



みやこ
◀ テンダーハウス 京・であい市

普遍化に向かう福祉の中で 京都府・京都市の社会福祉予算に関する提言及び要望

京都知的障害者福祉施設協議会
政策委員長 樋口幸雄



障がい者福祉施策に係る法制度の改正施行はめまぐるしく変動を続けています。平成15年度に措置制度から支援費制度に移行し（措置から契約へ）、選ばれる福祉の時代が始まりました。平成18年度の障害者自立支援法では、3障がいの三元化、就労支援（企業就労）の強化が打ち出され、支給プロセスの透明化・標準化を図るとして障害程度区分によりサービス利用制度が導入されました。平成22年の障害者自立支援法の改正（つなぎ法案）を経て、平成23年の障害者虐待防止法、平成24年には「障害者総合支援法」が成立し、障がいの範囲に難病等が追加され、障がい福祉サービスの対象となりました。同年には「障害者優先調達推進法」も成立しています。そして、本年4月の「障害者差別解消法」の成立へと続いています。こうした障がい福祉サービスの改革はノーマライゼーション・インクルーシブ社会の実現という理念の浸透もありますが、障がいや高齢に関わらず全ての国民を対象とした「地域で暮らす仕組みづくり」を意味しています。それは我が国の急激な少子高齢化や長期低成長社会を背景として、持続可能なこれからの社会保障の在り方に対する抜本的な見直しでもあります。また、この10数年の間に2度も起きた巨大な自然災害（阪神淡路・東日本大震災等）により、「明日は我が身」を実感することで国民の認識は福祉の対象が「障がい」や「高齢」といった手帳主

「要望及び提言」からの抜粋

京都府・京都市の福祉施策に対する要望と提言について

- ◆ 1. 児童系事業所
- ◆ 契約入所児でも生活困窮家庭の場合、措置入所の拡大措置を
- ◆ 児童手当の18歳までの引き上げを
- ◆ 2. 入所・通所系事業所
- ◆ 質を高めるため、国制度の不足分について、国に働きかけを
- ◆ 役務の優先調達法を利用した年間契約での発注を
- ◆ 3. 地域支援系事業所
- ◆ 計画相談に対する十分な財政支援を
- ◆ 医療的ケア必要者の暮らしの場創設への財政支援を（ヘルパー利用枠の拡大も）

第36回近畿地区知的障害関係施設長会議に参加して

日時：11月26日(火)～27日(水)

会場：ハイアットリージェンシー大阪

こぐま園
園長 丹良一

こぐま園は、昨年の4月から京都市の委託を受け、福祉型児童発達支援センターの運営を行っております。今回の大会テーマ「社会福祉法人の福祉サービス提供事業所のサステイナビリティ(持続可能性)を考える」の質の高いサービスの継続的な提供を目指しては、新たな一歩を踏み出した「こぐま園」の為にテーマのように思え参加いたしました。

1日目の基調講演は、大阪市立大学の川村尚也准教授から、社会福祉法人が長期的に存続していくためのマネジメントについて、多くの示唆を与えていただきました。経営学の視点では、お金はあまり話題にならず、「知識経営」お金の入らないマネジメントが主流となっていること、知識創造のプロセスや知識ベース経営等々の少し難しい話を大変解りやすく説明していただきました。今や企業のお金は、その責任として社会貢献をしていることから、私たち社会福祉法人は、経営学の視点に立った意識改革が必要なことを強く感じました。今、私たちは企業に見習うべきところは習い、民間非営利組織の置かれている状況・危機を考えていかなければならない時だとの認識を深めることができました。

講演に引き続いてのシンポジウムでは、3人のシンポジストの方から具体的な取り組みや考え方の基本を、実践を通して伝えていただきました。南山城学園理事長の磯彰格氏からは、人材の確保と育成について、民間企業の「人・モノ・カネ」は、社会福祉法人では「人・人・人」であること。福祉人材確保には、採用力が求められること。採用力には組織としての魅力が不可欠であること。そして、法人として透明性の確保には、情報の「見える化」から「見せる化」への変換が求められていることを教えていただきました。

した。五色精光園施設長の池幸美氏からは、法人内94施設という大きな組織の中での取り組み、全職員対象の外部委託による意識調査や様々な資格取得に対する地域ニーズに応えた実践、福祉のブランド化に向けた取り組み報告をいただきました。

京都ライフサポート協会理事長の樋口幸雄氏からは、法人の理念やユニットケアにおける施設コンセプトに基づく質の高いサービスの提供、多機能事業所での一流シェフによる、一流フレンチレストランの経営等々、理想を現実にした熱い思いを語っていただきました。その後、コーディネーター、助言者を交えた熱心な議論を通じ、私たちが進むべき方向が見えてくるシンポジウムであったと思います。

2日目は第4分科会「生涯にわたるシームレスな支援とサービス提供体制を考える」に参加しました。コーディネーター、児童の通所・入所・成人の入所・日中活動、相談支援から5名のシンポジスト、参加者14名と

少数であるがゆえに、参加者の顔が見えるアットホームな分科会となりました。各々の事業所での取り組みや課題についての具体的な報告の後、和気あいあいとした楽しい雰囲気での意見交換が行われました。児童のライフステージが大切なこと、就学前から学校、就労へとシームレスな引継ぎ、地域での当り前の生活をしていくための支援、相談支援の公平中立性の大切さや担当件数の多さ、24時間体制の困難さ等の実践報告を受け、時間をオーバーしての熱心な議論が展開されました。最後に、各事業者や自治体で取り組んでおられる支援シート等についての情報交換を行い、この分科会で顔見知りとなった関係を明日に活かそうと確認することができた、爽り多い分科会となりました。この2日間、熱い思いを共有する多くの仲間に出会えたことに感謝し、子どもたちの明日の笑顔のために頑張ることを決意し感想としたいと思います。



▲開会式



▲基調講演



▲シンポジウム



▲第4分科会①



▲第4分科会②



▲次期開催挨拶

「人権擁護と虐待防止」職場内研修ファシリテーター養成研修に参加して

テナーハウス

副施設長 後藤英知

9月24日に京都社会福祉会館で行われた知的障害者福祉施設職員研修「人権擁護と虐待防止」職場内研修ファシリテーター養成研修に参加しました。この研修は、各事業所において「人権擁護・虐待防止」の職場内研修を実施するためのファシリテーターを養成する目的で、講師に会津大学短期大学部社会福祉学科の市川和彦教授を迎え行われました。

まず、「虐待」という言葉をきいたとき、おそらくほとんどの人が「よくないこと」という認識を持っており、いいと思って進んで虐待を行っている人はいないと思います。ただ、誰がみても虐待だろうという事例はともかくとして、「これって虐待?」「どこから

が虐待?」というようなグレイゾーンをどう捉えるかというお話や、そのグレイゾーンや普段虐待と気づかずに行っていることの洗い出しが大切であるというお話が講義の中でありました。

言われてみれば、車イスの利用者さんに対して、転落防止や姿勢保持の目的で胸ベルトをしてもらっていたところ、外部の方より「身体拘束ではないか」と指摘を受けたことがあります。拘束する目的ではなく、本人の安全や健康を考慮していただくため、当たり前のようにベルトをしてもらっていましたが、車イスの安全ベルトも身体拘束になってしまう危険性を秘めているのだと気づかされたことがあります。

普段の支援の中で、虐待や虐待となる可能性を秘めた不適切な関わりはないか、それにどうやって気づき防いでいくか。この研修の中では、そのための手法として「グルー

プシエアリング」や「事例検討」「ロールプレイ」が紹介されました。実際に職場内研修を行うにあたり、どの手法もとても参考になるものでありましたが、個人的には、「気づき」を得るという意味合いにおいて特に「ロールプレイ」が有効だと感じました。この研修で紹介されたロールプレイは、ひとつのロールプレイに全員が参加するというシアター型ロールプレイで、それぞれ監督、

演者、観客に分かれて参加します。演者になって、利用者さんや支援者を演じることにより、それぞれの立場で物事を考えたりそれぞれの気持ちを理解したり、また、観客として参加する中で「自分だったらどう演じるだろう」とか「どんな気持ちになるだろう」と振り返ることができ、大切な「気づき」を得ることが出来る演習であると感じました。

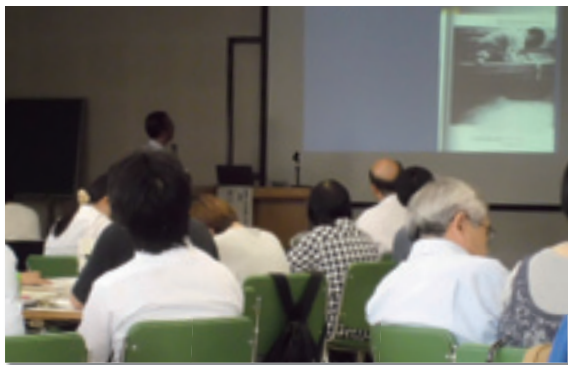
知的障がいの方の支援では、障がいの見

えにくさゆえに障がいに對する配慮に欠ける支援になってしまふ可能性が有ります。例えば、車イスの方がおられ、段差があつて通れない場所があつた場合、その段差をなくすることがバリアフリーとして当たり前になつており、その段差を越えられるように車イスの操作技術を訓練しないといけないという人はほとんどいないと思ひます。ところが、知的障がいの方に対しては、その障

がいの見えにくさゆえに、車イスの人でいう段差を乗り越える訓練をさせられてしまふことがあるように思ひます。そういった面では、われわれ支援者は日々の支援の中で人権侵害がないかを常に振り返り、少しでも疑問に思ふことがあれば、日々の会議や職場内の人権擁護・虐待防止研修を通じて不適切な関わりを改善していくことが特に重要であると考えます。

また、この研修で同じグループになつた他施設の方たちと話し合つた中で、利用者さんへの「呼称」の問題がなかなか改善されないというお話がありました。結局のところ、それもひとりひとりの「気づき」の問題ではないだろうかと思ひます。障害者虐待防止法ができたから名字に「さん」付けするとか、上司に言われたからそうするではなく、ひとりひとりが「なぜそうするのか」ということに気づき実践することが大切なのだと思います。

そして、今後職場内研修を実施していく中でどれだけの「気づき」を生み出すことができるのか、今回の研修に参加したものの責任として、大きなプレッシャーを感じながらなんとか頑張つていきたいと思ひます。





▲パラバルーンの演技

第37回京都知福協「幼児のつどい」を終えて

幼児のつどい実行委員長
洛西愛育園 佐藤 夕佳子

10月10日、京都府立体育館に京都市内にある児童発達支援センターの内、4つの単独通園施設に通う子ども達、保護者、職員が一同に会し、母子通園施設ポツポから5名のお友達を迎え「幼児のつどい」が開催されました。前日まで台風の影響が心配されましたが、当日は陽の光が眩しい程の秋晴れとなり、気持ちの良いスタートをきることができました。

今年度のテーマは「絵本の世界であそぼう」でした。子ども達に馴染みがあり、大好きな絵本にちなんだあそびを各園が企画しました。

空の鳥幼児園は「ごりらのごんちゃん」。扮装した職員の登場に子ども達は大喜びでした。ごんちゃんが背負ったカゴに子ども達が玉を入れたり、輪投げをしたり秋の運動会をイメージしたあそびになりました。

洛西愛育園は「ぞうくんのさんぽ」に登場



▲京都市消防音楽隊の演奏

する動物を、保護者の協力で集まった牛乳パックの積み木で作りました。積み重ねたり、並べたり、子ども達がストーリーの展開をイメージしながら親子で楽しみました。

ひなどり学園は「ガタンゴトン ガタンゴトン」。子ども達が大好きな電車あそびでした。職員が運転する段ボールの電車に、子ども達が絵本に登場する美味しい果物の玩具をたくさん乗せてあそびました。

むくの木園は「うらしまたろう」。子ども達が大好きな素材のタフロンテープを海に見立て、スケーターを使いながら、ゴールの魚や乙姫のパネルへと大喜びで進んでいきました。

実行委員会で、それぞれの子ども達が参加できる工夫、子ども達だけでなく親子で楽しめるあそびになるように、何度も話し合ってきました。

その結果、どのプログラムにも、職員の皆さんのアイデアが溢れており、とても素晴らしいものになりました。

今年度も午後から「京都市消防音楽隊」の演奏をお願いしました。

消防音楽隊の方には、子どもの興味あること、好きなことをお話しして、どうすればより楽しめるかを一緒に考えて頂きました。

隊員の皆さんには、曲に合わせてお面や衣装をつけて演奏していただきました。また、子ども達の心を捉えた寸劇で会場は歓声に包まれました。

最後になりましたが、行事・文化部会の濱田部会長はじめ、たくさんの方々のご協力と、京都市、京都府からもお忙しい中、ご臨席頂き有難うございました。

今後、「幼児のつどい」に参加して良かった」と思えるようなものを皆で協力し合い作りあげていきたいと思えます。

京都知福協 風船バレーボール大会を ふりかえって

行事・文化部会長
みずなぎ学園 施設長 濱田 康寛



試合風景



11月6日、亀岡運動公園大体育館において風船バレーボール大会を開催いたしました。昨年度は亀岡以北の施設限定としましたが、今年度は再び、知福協加盟の全施設対象として開催し、11施設から15チーム、約1500人の選手の皆さんに参加いただきました。大会当日は、11月にしては比較的暖かく穏やかな天候に恵まれ、会場到着後に屋外で弁当を食べておられる姿も多く見られました。球技大会だけでなく、車窓からの景色や昼食の楽しみも含めた秋の恒例行事として参加いただいているという話を聞かせていただいたり、勝敗にかかわらず風船の行方に一喜一憂される楽しそうな笑顔を見せていただき、年一度の大会ですが大切に守り続けていかねばとの思いを強くいたしました。

みずなぎ高野学園という順位となりました。大会全体の印象として、和やかで楽しい雰囲気にも包まれていたように感じたのは、各チームを引率いただいた職員の皆様のご協力あつてのことと、心より御礼申し上げます。最後に、お忙しい中、大会運営にご協力いただきました実行委員の皆さん、会場準備から試合進行、後片付けに至るまで本当にありがとうございました。

● 試合結果 ●

優勝 あけぼの学園
るりけい寮

準優勝 みずなぎ鹿原学園

3位 みずなぎ高野学園



▲美術活動 小麦粉粘土をこねています

シリーズがんばっています

大照学園 授産部

施設長：細井章代

華頂山のふもと、知恩院を借景とした閑静な環境の中にあり近くには清水寺、平安神宮等の名所が数多くあります。

大照学園授産部は昭和43年1月1日設立。その当時入所された利用者の方の在所期間は45年とされます。

就労継続支援B型(定員15名)、生活介護(定員35名)の多機能型施設です。

平成16年4月から始めた送迎サービスは現在15名の方が利用されていますが、普通車2台で運行の為に必要性の高い方からのご利用となっております。

就労継続支援B型の利用者の皆さんは箱折り作業と陶芸作業です。陶芸作品は窯元店で販売しています。丁度円山公園へ抜ける道路沿いに位置している、春は桜、秋は紅葉のシーズンに観光客で賑わいます。休日祝日には保護者の方が交代でお店番をさせていただきます。8月の五条坂の陶器祭にもお店を出していますので一度覗いてみてください。

生活介護の利用者の皆さんも箱折

り作業、ネジの袋入れ、ワッシャーはめ、スウェーデン刺繍、布製品、ビーズ製品、缶漬し、新聞回収袋畳み、シール貼り等も行っています。

また、生活介護では体力の維持、創作を楽しむ、精神的な安定、リフレックシユを図る為の支援としてウォーキング活動、美術活動、音楽活動を行っています。

ウォーキング活動は6〜8名のグループで蹴上や動物園や清水寺に出かけますが皆さん楽しく参加されています。信号前の一時停止、左右確認後の横断、列の幅を広げない等、体育で園外へ出る時に実施している留意点ですが少人数のグループだと一層細かい支援が出来つつあります。途中、自動販売機で購入するコーヒィや紅茶にニコニコ顔です。

美術活動は絵を描いたり視たり創つたりの大好きなメンバーの集まりです。ちぎり絵、貼り絵、クリスマスカード、年賀状作り、コラーージュ、野外観察、美術館鑑賞等、身近な自然や美術作品にふれ創作を楽しみます。以前は飛ん

だり跳ねたりの活発な利用者の方も落ち着いて描けるようになれ回を追うごとに自主的にご自身で絵の具を出しキャンバスに載せ、画面一杯に広げられるようになりました。

音楽活動は、月一回、NPO法人「音の風」から講師を招いて合唱(主に童謡・楽器演奏(ピアノ、クラリネット、小物打楽器)の活動です。CDに合わせてリズム遊び、手遊び、利用者の皆さん自由に楽器を鳴らしたり声を出したり体を動かして、感情表現することによって音楽の楽しさを体験されています。歌を歌いながらピョンピョン跳ねておられる利用者の方元一杯です。

就労継続支援B型と生活介護共に参加の学園バザー、家族旅行、運動会、忘年会、宿泊体験実習では年2回身辺自立に向けての練習も行います。

利用者の皆さんがいつも笑顔で明るく楽しく自分らしく伸び伸びと過ごして頂けるような環境提供が出来るように...と願っています。



▲ゴールはもうすぐ



▲音楽活動 好きな楽器を持って演奏中〜!!



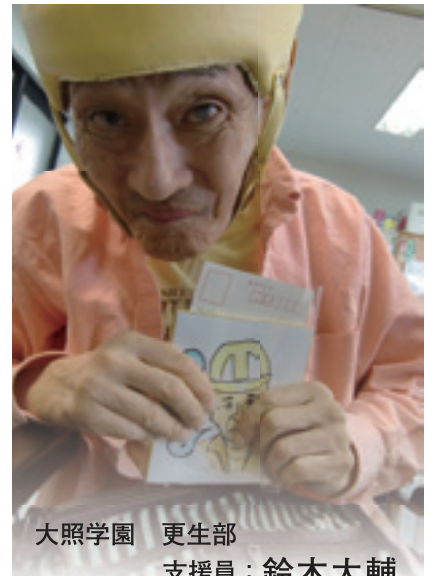
▲ウォーキング(木曜グループ) 二寧坂の前でピース!!



▲ウォーキング(土曜グループ) お天気に恵まれ絶好のウォーキング日和でした



▲観光スポット 窯元店



シリーズ こんなことやっています
似顔絵ボランティアを迎えて

大照学園 更生部
 支援員：鈴木大輔



去る9月29日に大照学園にて、ボランティアの方が2名来て下さり似顔絵を描いて頂きました。

私が大照学園でボランティアの担当をして5年が経ち、利用者の方に少しでも充実した生活を送って頂くためにボランティアさんの力をお借りしたいと考えていました。そこで、ひとまち交流館のホームページの人材提供ページで似顔絵ボランティアの情報を知った事がボランティアさんに来て頂くきっかけでした。

利用者さんにとって似顔絵を描いて頂けるといふ経験が初めてという事で、緊張しながら椅子に座りモデルをされている方がほとんどでした。しかし、ボランティアさんから気さくに声を掛けていただくと緊張がほぐれたのか笑顔で会話を楽しまれていました。そして、会話が始まって10分ほど経ち一枚の絵が完成しました。その絵を手に取り、嬉しそうにお礼を言った後、周りの利用者さんに見せて

回っておられ、またその絵を見て最初は遠慮されていた利用者さんも、次は私を描いて欲しいと希望される方がどんどん増えていきました。また、ボランティアさんも利用者の方の様子を見てどんどん打ち解けていかれました。笑顔の絶えない2時間があったという間に過ぎ、当初は10名ほどの予定でしたが、徐々に徐々に希望者が増えていき、最後は16名の似顔絵を描いて頂いていました。

ボランティアさんと利用者の方々が共に笑顔で過ごされていたその空間が本当に温かく、私もたくさん感動と力を頂きました。

また、利用者の方の充実した生活には、ボランティアさんの力もひとつと必要とされているのだと改めて感じる事ができました。そして、ボランティアさんと利用者の方を繋ぐ架け橋となる事が我々施設職員には求められていると感じる事が出来た貴重な1日となりました。

京都知的障害者福祉施設協議会のホームページができました。
 ホームページアドレス <http://kyotifuku.jp>

編集後記

モニタリングと新しい支援計画書を作成するため、9月に利用者の方と個別面談を行いました。私は面談時に必ず「将来の夢は何ですか？」と利用者の方に質問しています。夢について聞くことで、その人が普段何を考え、どのような事に興味を持っておられるのか知ることができると思うからです。「お給料でディズニーランドにいきたい。」「ギターを持って旅をしながら歌をうたいたい。」など、色々な夢を生き生きと語ってくださいました。

先日、利用者の方と車で出かけている時、「僕は将来 運転士になりたいんだ。能政さんの将来の夢は何？」と聞かれました。突然のこと、その時は戸惑ってしまい「私はお金持ちになりたい」となんとも夢のない返答をしてしまいました。いつも面談時に利用者の方に質問をしているのに、自分が将来の夢について聞かれた時はきちんと答えられない事が、なんだか恥ずかしく、人に質問するならば、自分も夢を持たないといけないかと反省しました。

それからは今自分がやりたいこと、憧れているものについて考え、自分なりの夢を持つように心がけています。夢を持つと、その夢を叶えようと努力するので、前向きな気持ちになり、日々が充実します。夢を語る利用者の方が生き生きとされている理由が分かる気がします。

みなさんの将来の夢はなんですか？ちよつと考えてみると、毎日が楽しくなりますよ☆